夏秋ナスにおける天敵利用栽培の普及

要約

管内では夏秋ナス栽培において、薬剤抵抗性が年々発達しているミナミキイロアザミウマ対策として、選択性殺虫剤を利用して土着天敵であるヒメハナカメムシを保護するとともに、ほ場周辺にフレンチマリーゴールドを植栽してヒメハナカメムシの増殖を図ることにより、農薬の散布回数を低減した栽培体系の普及に取り組んでいる。

平成２６年度の天敵利用栽培面積は、昨年度とほぼ同様であり、天敵利用栽培が定着しつつある。また、ミナミキイロアザミウマの被害による果実収量および品質の低下は極めて少なかった。

現状(背景)と課題

・天敵利用栽培面積
　現状：１．７ｈａ

⇒

目標

・天敵利用栽培面積
　平成２６年度：１．０ｈａ

活動内容

・指導対象：管内夏秋ナス生産組合、パンドラファームグループ夏秋ナス生産者（合計３３名）
・栽培講習会　１回　→　病害虫防除所、農業研究開発センターから講師を招き、天敵利用栽培におけるポイント（天敵に影響が少ない選択性農薬の使用、ほ場周囲へのフレンチマリーゴールドの栽植、天敵利用栽培で問題となる害虫対策など）について情報提供を行った。
・現地検討会　２回　→　病害虫防除所、農業研究開発センターと連携しながら、各地区の生産者グループに対し現地指導を実施した。

成果

・平成２６年度の天敵利用栽培面積：１．６ｈａ（平成２５年度とほぼ同等）。
・ミナミキイロアザミウマによる被害果はほとんど発生しなかった。
・本年度は果樹類に被害を与える大型カメムシ類の多発年に当たり、一部の生産者ほ場でナスの果実にも被害が発生したため、慣行防除に切り替えるタイミングを指導することにより、収量が安定した。
・残された課題解決に向けた活動
　①新芽に被害を与えるカスミカメムシの防除時期や、防除に使用すべき農薬について、本年度の調査結果を基に病害虫防除所、農業研究開発センターとともに防除体系を見直す。
　②天敵利用栽培の定着と新規天敵利用栽培者数増加を図るため、管内の夏秋ナス生産者を対象とし、平成 26 年度の反省会を兼ねた講習会を開催する。

講習会の様子

現地検討会の実施

南部農林振興事務所農業普及課
担当：担い手係　森岡
　　産地づくり係　櫻井

普及活動のポイント

- 講習会を開催することにより、夏秋ナスの天敵利用栽培について生産者の理解を深めた。
- 農業研究開発センター、病害虫防除所と連携して現地検討会を開催し、時期ごとに注意すべき病害虫を紹介することで、生産者全体の技術力向上を図った。
- 天敵利用栽培ではカスミカメムシなどの害虫防除が困難な場合について、個別に慣行防除に切り替えるタイミングを指導することにより、ナスの収量が安定した。

対象の変化

- 土着天敵のヒメハナカメムシは安定して定着しており、ミナミキイロアザミウマによる被害果はほとんど発生しなかった。
- 昨年度はカスミカメムシの被害により収量が不安定であったが、本年度はカスミカメムシや果樹類に被害を与える大型カメムシの発生が多い地区では、慣行防除体系への切り替えを判断・指導することにより、収量が安定した。

これからの活動ビジョン

- 天敵利用栽培に興味を示す生産者を対象とした講習会の開催→新規天敵利用栽培者の開拓
- カスミカメムシ対策の指導継続、防除体系の見直しによる技術力向上

- **活動体制**

対象：夏秋ナス生産組合
　　パンドラファームグループ夏秋ナス生産者　（合計33名）

↑ 講習会、現地検討会、ほ場巡回等

支援チーム　～情報共有、共同活動～

ＪＡ五條営農経済センター
ＪＡ五條南部経済
(株)パンドラファームグループ
　＊出荷方針決定、出荷請負
　生産者の相談窓口

南部農林振興事務所
　＊栽培管理状況の確認、問題点把握、
　対策案の提示、指導

農業研究開発センター、病害虫防除所
　*天敵活用栽培マニュアルの改訂
　病害虫の発生状況調査
　調査結果の生産者へのフィードバック